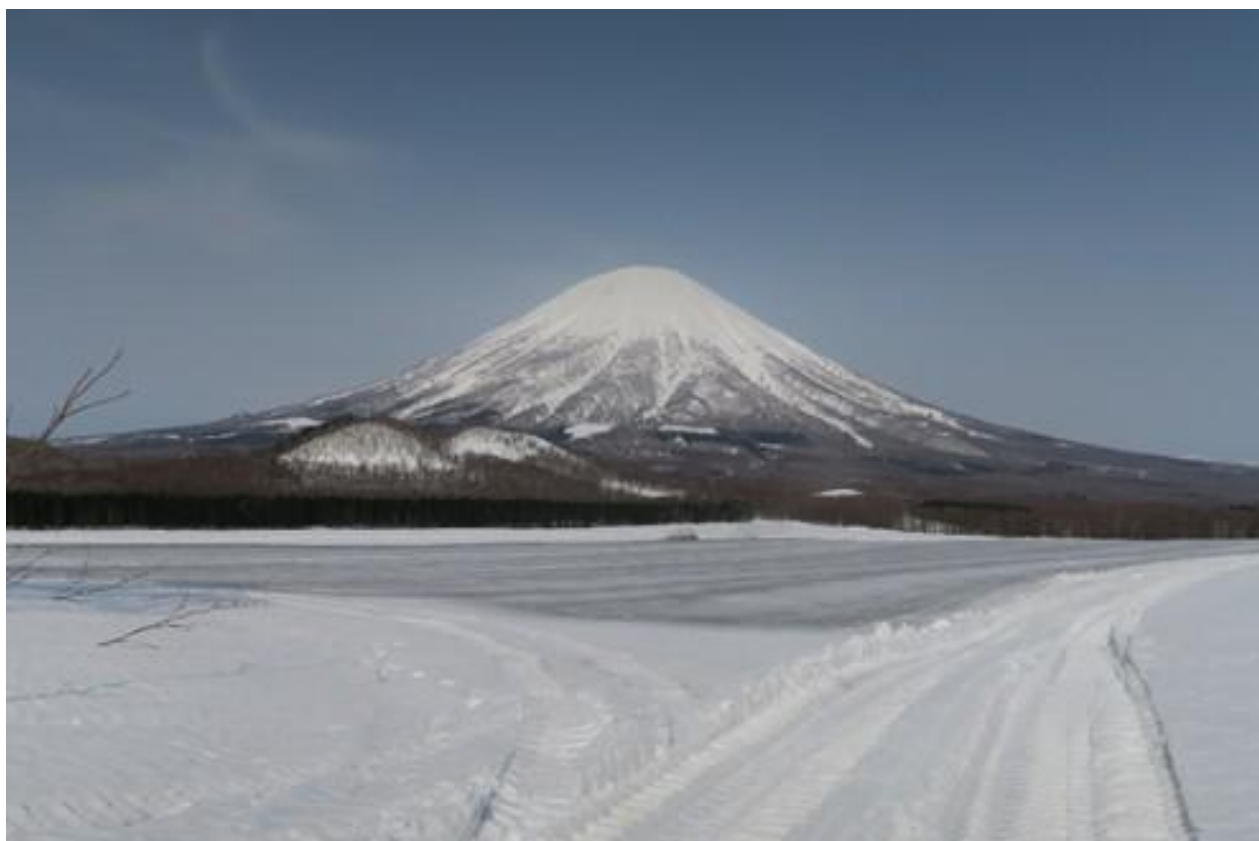


# 種苗管理センターニュース

Center for Seeds and Seedlings, NARO

第 99 号



後志分場 冬のばれいしょほ場と羊蹄山

- ・ 巻頭言 農研機構理事長 “第 5 期の成果と第 6 期への展望  
— 食料安全保障・環境保全・産業競争力の三本柱 —”
- ・ 農場便り 後志分場  
孺恋農場
- ・ 特集 【若手調査員に聞く】～ いま何してる？ ～
- ・ トピックス 東アジア植物品種保護フォーラムへの協力活動  
オンライン一般公開への参加

## 農研機構 種苗管理センター

「農研機構」は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネームです。

## 第 5 期の成果と第 6 期への展望

### — 食料安全保障・環境保全・産業競争力の三本柱 —

新年、明けましておめでとうございます。本年が皆様にとりまして充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



昨年は米が非常に注目され、食料安全保障や、それを支える農業の重要性がクローズアップされた年でした。農業従事者の減少や高齢化、気候変動、国際情勢の変化など、農業を取り巻く環境が一層厳しさを増す中、昨年 10 月に就任した高市首相は所信表明演説で施策の独立した項目の 1 つとして食料安全保障を取り上げ、「稼げる農林水産業」を掲げ、先端技術の活用や輸出拡大を強調しました。私は 2018 年 4 月の理事長就任以来、農業・食品版 Society 5.0 を実現し、「食料自給率向上と食料安全保障」、「農産物・食品の産業競争力強化と輸出拡大」、「生産性向上と環境保全の両立」に貢献することを組織目標として掲げてきました。これらは、高市政権の示す方向性とも合致しています。

農研機構は今年 3 月で第 5 期中長期目標期間が終了します。第 5 期は、司令塔機能の強化とその下での徹底的な機構内連携、農業界・産業界との連携による成果の実用化を徹底してきました。また、農業・食品産業と AI・ロボティクスの融合を推進し、多くの成果を創出しました。特に、第 4 期後半から開始した九州沖縄経済圏スマートフードチェーン(SFC)プロジェクト、第 5 期に開始した北海道 SFC プロジェクト等の産学官が連携してエコシステムを構築する取組は、産業の実需者や農業者が必要とする技術的ソリューションの開発・実装につながる好事例となりました。今年 4 月からの第 6 期中長期目標期間では、この SFC プロジェクトの取組をさらに発展させ、農研機構が産学官連携のハブとなり、生産現場、自治体、大学、企業等を結ぶ新たなエコシステムを構

築することにより、研究開発から社会実装までを推進します。また研究開発については、引き続き基盤技術研究本部で農研機構全体の AI 等の情報研究や分析技術の高度化等を推進すると共に、研究セグメントを、農研機構の目標である「食料安全保障」「産業競争力強化」「生産性と環境保全の両立」への貢献を明確にした構成に組み替えます。具体的には、5つの地域農業研究センターを1つのセグメントとして食料安全保障を支える産学官連携と技術普及の拠点と位置づけます。また地域農業研究センターの生産基盤技術を支えるセグメント、産業競争力強化を目指すセグメント、生産性向上と環境保全の両立を目指すセグメントを設置し、目的を明確にした研究開発と社会実装を進めます。

昨年 4 月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」では初動 5 年間で農業の構造転換を集中的に推し進めることとされています。農研機構はこの方針に科学技術イノベーションで貢献すべく全力で取り組んでまいります。我が国の農業にとって、まさに今が正念場です。関係の皆様には、益々のご支援・ご協力、農研機構との連携をお願いいたします。共に日本の農業の明るい未来を切り拓きましょう。

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

理事長 久間 和生

## 農場便り【後志分場】

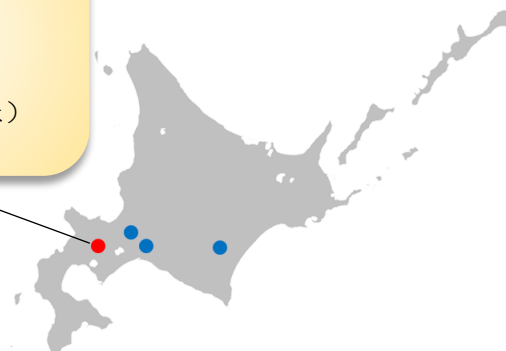
北海道中央農場後志分場はルスツリゾートで有名な留寿都村から約5km、冬期海外からのインバウンド客で有名なニセコ町から約20km、札幌市から南西に約80km離れた真狩村に位置しています。

後志分場は昭和22年に後志馬鈴薯原原種農場として設立され、昭和61年に種苗管理センター後志農場となり、平成13年に胆振農場後志原種生産分場、平成18年に北海道中央農場後志分場、平成28年に農研機構種苗管理センター北海道中央農場後志分場と改称しています。

**後志分場**  
北海道虻田郡真狩村  
総面積 363ha

主要業務

原原種（ばれいしょ）



ばれいしょの植付

後志分場は尻別岳、軍人山、櫛追山（そりおいやま）、羊蹄山と四方を山に囲まれた、海拔約400mの波状台地に南北3.8km、東西1.4kmで総面積363.1haを有しており、そのうち傾斜が2～6度の比較的緩やかな場所を農耕地（107.3ha）として利用しています。

後志分場の業務はばれいしょ原原種生産で生食用「さやか」「ゆめいころ」「スノーマーチ」「男爵薯」、デンプン原料用「コナヒメ」「コナユタカ」、ポテトチップ用「きたひめ」「ぽろしり」「オホーツクチップ」計9品種を生産しています。令和7年度では6,184袋（20kg/袋）の原原種を配布する計画となっています。

ばれいしょ原原種の安定生産については、農場周辺に一般のばれいしょ農家のほ場が多いため、ウイルス病に罹った種ばれいしょを一般農家が使用すると、農場に保毒アブラムシが飛来し原原種へ感染させ、原原種のウイルス罹病率が上昇する可能性があります。これを防ぐために一般農家と連携協力し、環境浄化用規格外種子配布を行っています。さらに、場用種子については被覆による隔離栽培を実施し、ウイルス感染防止対策に取り組んでいます。



ばれいしょ原原種の秤量と袋詰め作業



農場の職員が 12 名と非常に少人数な職場で、一丸となって業務を推進しています。業務体制は種苗生産チーム及び品質管理チームと管理チームで進めています。トラクターなど大型機械に乗る機会も多く、特に冬期間は何らかの形でトラクター（スノーブローアー）、ホイールローダー、ブルドーザーが稼働して除雪を行っていますので、ベテラン職員の指導の下、様々な経験と作業時間を積むことが可能です。また、種苗生産チーム・品質管理チーム間での作業協力も積極的に行っており、種苗生産業務全般の経験を積むことが出来ます。



除雪作業前安全講習会 実技講習

夏冬通してアクティビティが豊富で、すぐそばにルスツリゾートやニセコのスキー場があるため、自転車、登山、スキー・スノーボード、尻別川のラフティングなど一年を通じて楽しむことができます。冬期のニセコインバウンド価格がニュースで報じられていますが、職員が買い物に行く近隣の倶知安町や真狩村の物価は通常のままですので安心してお立ち寄りください。

（後志分場）

## 農場便り【孺恋農場】

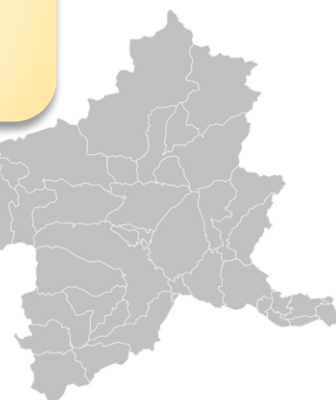
孺恋農場は群馬県の西部に位置する吾妻郡孺恋村にあります。孺恋村は浅間山をはじめ四阿山（あずまやさん）、草津白根山等の標高 2,000m 級の高峰に囲まれた高原（標高約 700m 〜）で、夏は避暑地として、冬はウィンタースポーツでにぎわう村です。村名の由来は、「日本武尊（やまとたけるのみこと）」の東征中に、海神の怒りを鎮めるため愛妻「弟橘姫（おとたちばなひめ）」が海に身を投じ、その帰路、碓日坂（今の鳥居峠）からの雲海を見て海に身を投じた亡き妻を思い出し「吾孺者耶（あづまはや）」（ああ、わが妻よ、恋しい）とお嘆きになっ

て妻をいとおしまれたという故事にちなんで孺恋村と名付けられました（孺恋村誌より）。また、孺恋村の鹿沢温泉は雪山讃歌の生まれた地で歌碑が建立されており、村の防災無線で正午のチャイムは雪山讃歌のメロディが流れます。高冷地に位置する孺恋村は、立地条件を生かし夏秋玉菜（キャベツ）の産地として 50 年以上にわたり全国一位の出荷量を保持しています。

孺恋農場  
群馬県吾妻郡孺恋村  
総面積 305ha

主要業務

原原種（ばれいしょ）



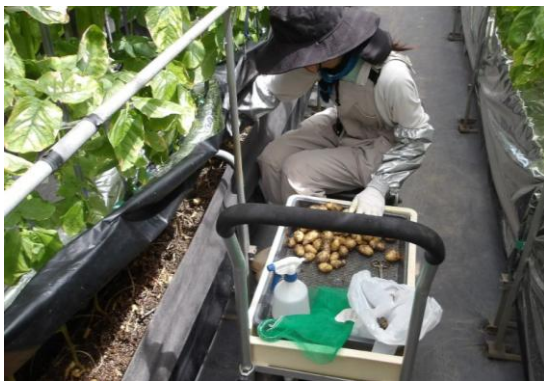
孺恋農場は、孺恋村の中でも標高が高い約 1,200 m～1,350mのところであり、総面積は 304.6ha、その内耕地が 106.9ha、建物道路が 16.0ha、樹林地が 175.8ha、その他が 5.9ha となっています。気象については、令和6年の平均気温は 9.1℃、最高気温 30.6℃、最低気温 -12.8℃、年間降水量 1,811mm、年間日照時間 1,847 時間となっており、全国的に高温化が問題となる中 30℃を超えた日は5日間だけと、過ごしやすい気候の中であればいしょ原原種の生産配布業務及び遺伝資源作物の保存業務を行っています。



孺恋農場 事務所前



ほ場と浅間山



ミニチューバーの収穫

原原種生産についてですが、ばれいしょは野菜の種子と違い増殖率が低く、また、病気に罹った種いもを使用すると収量が大きく落ち込むため健全無病の種いもを供給することが重要です。わが国では増殖体系（原原種→原種→採種→一般栽培）が整備され種いもが供給されています。種苗管理センターでは大元となる原原種の供給を行っています。孺恋農場では、健全無病の原原種を生産するため、試験管で育てられた無病の培養苗を温室で養液栽培し、10g ぐらいの小さいミニチューバーを生産し、そのミニチューバーを元だねとして、ほ場(畑)で2作行います。ほ場は土壌病害を防止するため5年輪作体系をとっています。令和7年度は18品種3,462袋(20kg/袋)の原原種を生産し、九州、中国地方を中心に配布を予定しています。

また、遺伝資源研究センターが実施している農業生物資源ジーンバンク事業のサブバンクとして、栄養繁殖性のばれいしょ990品種・系統について、保存・増殖・特性調査を行っています。

最後に、孺恋及び近郊の魅力について少しご紹介させていただきます。夏の避暑地としては、近隣の長野県軽井沢より涼しく、浅間高原一帯が一大別荘地となっております。

キャンプ場も充実しており、簡単なハイキングから本格的な登山までトレッキングが楽しめます。冬は標高が高くパウダースノーが満喫できるスキー場がいくつもあります。また、村内外に温泉が多くあり、隣町には有名な草津温泉もあります。大自然の中、アウトドアを楽しむのもよし、温泉につかりのんびり癒されるのもよしです。

(孺恋農場)

## 特集【若手職員に聞く】～いま何してる？～

令和4年度に採用された若手職員に「いま何してる？」と聞きました。

…いま何してる？… 上北：高橋 沙央 調査員

### 上北農場について

上北農場業務部・種苗生産検定チームの高橋です。私は令和4年4月に採用となり、つくばで3か月間の研修の後、同年7月から現在まで上北農場で勤務しています。上北農場は青森県の中でも特に積雪の多い地域に位置しており、北海道出身の私でも衝撃を受けたほどです。一方で、大自然に囲まれた環境の中、季節の移り変わりを感じながら働けることは、農場の魅力だと実感しています。

### 担当業務

現在は種苗生産検定チームに所属し、主にばれいしょ原原種の病害検定業務を担当しています。PCRやELISAでの病害検査に加えて、栽培期間中はほ場を歩いて異常株や病害株の抜取りも行います。歩きにくい畦の中を長距離歩かなければならず大変ですが、病気を見逃すと生産業務全体に影響が出てしまうため、非常に責任のある大切な仕事だと感じています。

また検定業務以外にも、ほ場での作業に幅広く携わっています。トラクターの運転や大型機械の点検、肥料や農薬の散布作業など、年々できる作業が増えてきました。今年はポテトプランターの運転にも挑戦し、最初はトラクターをまっすぐ走らせることも難しく苦戦しましたが、先輩職員に教えてもらいながら少しずつコツを掴むことができました。ひとりでスムーズに操作できるようになった時には達成感を感じられ、また農場のチームでの作業に貢献できていると、嬉しく思いました。



収穫作業の様子

### 今後の抱負

今年度はけん引免許とフォークリフトの運転資格を取得したので、ハーベスターの運転や、フォークリフトでの収納・運搬作業にも挑戦してみたいと思っています。また大型機械については、点検だけではなく整備までひとりでできるよう、知識や技術も身につけていきたいと思っています。

さらに、今後は原原種生産以外の業務にも挑戦し、栽培試験や品種保護などセンター全体の多様な業務を経験することで視野を広げ、どんな業務にも柔軟に対応できる職員になれるよう努めていきたいです。



## 休日の過ごし方

旅行やドライブ、アウトドアが趣味で、休日は出かけていることが多いです。

特に思い出深いのは、1年目の夏に先輩職員の方々から声をかけていただき、富士登山に挑戦したことです。登山は大学時代から好きでしたが、この富士登山の経験で自信がつき、今ではひとりで他県の山に登りに行くほどになりました。旅先でのご当地グルメや温泉なども楽しみのひとつで、休日をしっかりと楽しむことが、仕事への活力にもつながっていると感じます。



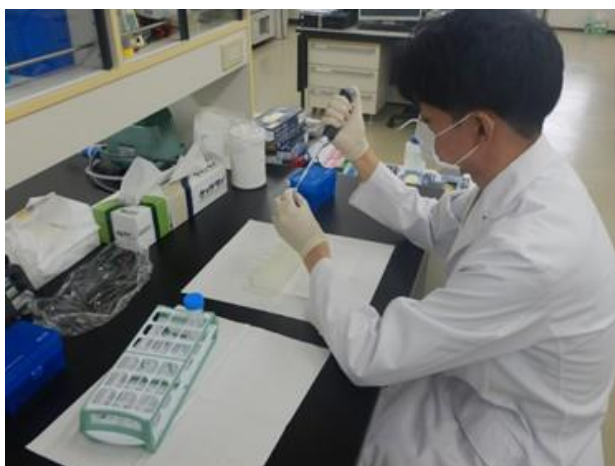
月山（山形県）登山

…いま何してる？… つくば本所：古瀬 壮一郎 調査員

## 担当業務について

私は令和4年4月に採用され、本所で3か月研修を受けた後、令和7年3月まで沖縄農場でさとうきびの原原種生産を担当し、4月より現在の品種保護対策課に異動となりました。

種苗管理センターでは、「育成者権」の保護・活用を支援する業務を品種保護活用相談窓口で受け付けており、品種保護制度や育成者権の問題に第三者の立場で支援を行います。品種保護対策課が実施しているサービスには、育成者権の保護・活用に関する相談への助言や登録品種と侵害疑義品の比較を行う品種類似性試験等があります。全国に担当職員が配置され、育成者権者からの依頼に基づき業務を行っています。



実験作業

私の担当している業務は、DNA分析による品種類似性試験の対象品種を追加するためのDNAデータベースの拡充です。この業務では、DNA抽出やPCRなどの分子生物学的な実験を行います。沖縄農場での2年9か月間は、ほ場での栽培管理が主で、いわゆるラボワークの経験はほとんどなかったので、作業に慣れるまでに時間がかかりました。DNAを扱う作業ではコンタミネーションに気を付けなければならず、サンプルを取り扱う際は慎重な操作が必要で、とても苦労しました。また、DNAシーケンサーと呼ばれる機器を用いて遺伝子型を判別するのですが、見るのも初めての機器で、初めの頃は

分析に必要なサンプルの調製や機器の操作に苦労しました。しかし、先輩職員の方にアドバイスをもらいながら回数を重ねることでスムーズに進めることができるようになり、データが揃ったときは達成感を感じました。



## これからの抱負

異動してまだ半年程度しか経っておらず、経験不足な部分ばかりです。

まずは、現在担当している業務を確実に進められるように、知識や技術を身につけていきたいです。また、当課には豊富な知識を持った先輩職員の方がいらっしゃいますので、コミュニケーションを取りながら必要な知識や技術を身につけ、電話による相談対応や品種類似性試験をはじめとする当課の様々な業務を遂行できるように努めていきたいです。

## 休日の過ごし方

普段は家の中で過ごすことが多いですが、おいしいものを探したり、観光スポットに行ったりもします。一つ印象的だったのが牛久市にある牛久大仏なのですが、日本最大級の大仏ということで、すごく迫力がありました。茨城県には、魅力的な観光スポットがたくさんあるので、住んでいるうちに色々なところを回っていければと思っています。



牛久大仏

…いま何してる？… 鹿児島：蒲池 唯 調査員

## 担当業務について

鹿児島農場の蒲池です。私は令和4年4月に採用され、つくば本所の種苗戦略室で2年勤務した後、鹿児島農場に配属されて現在2年目です。鹿児島農場では、さとうきび種苗生産業務を行っており、生産チームと検定チームの2チームに分かれています。私は検定担当として、配布する苗の品質確保を担っています。具体的には、植付けたさとうきびに病気がないか目視で確認し、葉に病徴が出ない病気についてはPCR検定で確認して、異常な株を抜取ります。これに加え、さとうきびの栽培管理業務として、機械作業や収穫・植付作業なども行います。

鹿児島農場は、コミュニケーションが活発で明るい雰囲気、少人数の農場なので個人のスキルアップとチームワークを大切にしています。若手でも仕事の裁量が大きいので日々成長できていると感じています。



さとうきびの収穫

## 大変だったこと

入構後は事務仕事をしていたので、現場仕事とのギャップに驚きました。検定技術や栽培管理技術の向上には知識だけでなく経験が必要です。1年目は分からないことばかりだったので、とにかく上司や先輩に質問し、技術習得のためにたくさん機械に触らせてもらいました。事務仕事に比べて1日の終わるスピードは圧倒的に早かったです（笑）

## やりがいを感じたこと、面白かったこと

業務の中でやりがいを感じたのは、配布先調査で農家や役場の方に配布した苗を褒めていただいた時です。私たちが高品質な苗を生産することで、さとうきび農家の方々が安心してさとうきび生産ができているということを実感しました。

面白かったのは、鹿児島県が開催するさとうきびの品種検討会に参加したことです。鹿児島県南西諸島のさとうきび担当者の方たちと、ひたすらさとうきびの話をするのが楽しかったです。

## これからの抱負

昔とは環境（天候・人員・機械技術など）が変わってきているので、今の時代に合わせて業務の省力化や効率化を行いたいです。また、自分のスキルアップに励むとともに後輩への技術伝承を行っていきたいです。



休日のサーフィン

## 日常の楽しみ、過ごし方など

休日はサーフィンをしたり、友人と BBQ をしたりしています。サーフィンは種子島に来てから始めましたが、とても難しく、2年目でやっと楽しめるようになりました。きれいな海に入ると気持ちがいいです。

種子島で出会う人は、好きなことを極めていの方が多いのでお話するのがとても楽しいです。

## トピックス

### ◆東アジア植物品種保護フォーラムへの協力活動

#### <東アジア植物品種保護（EAPVP）フォーラムについて>

植物品種保護制度は、新品種の保護に関して、各国が共通の基本原則に従うことにより優れた品種の開発を促し、農業の発展に寄与することを目的とする国際条約に基づいており、日本もこの国際条約を批准しています。この条約は植物の新品種保護に関する国際同盟のフランス語略称（UPOV: Union internationale pour la protection des obtentions végétales）から UPOV（ユボフ）条約と呼ばれており、2025 年 12 月時点で 80 か国・地域が当条約に加盟しています。

EAPVP フォーラムは ASEAN10 か国と日本、中国、韓国の計 13 か国で構成されており、13 か国全ての UPOV 条約加盟を目指しています。

#### <DUS 試験に関する技術研修を開催して>

2025 年 11 月 26 日、27 日に EAPVP フォーラムの DUS 試験に関する技術研修をオンラインで開催しました。オンライン開催ということもあり、10 カ国から 145 名もの研修生が参加しました。

研修は、農林水産省種苗室の田中室長の挨拶から始まり、栽培試験の概要、特性の評価、写真撮影など栽培試験の基礎分野について種苗管理センターの職員が講義を行いました。研修生への事前アンケートからは、品種登録業務の包括的な知識、特性評価方法、対照品種のデータベースについて関心が高いことが分かっており、これらを中心とした講義構成としました。

質疑応答や総合討論では、チャットからの質問が多かった事が印象に残りました。チャットであれば質問内容を正確に把握できるため、講師陣にとってもメリットがありました。種苗管理センター側から各国に栽培試験の実施体制を尋ねたところ、インドネシアから回答があり、海沿い、中程度、高地と標高の異なる3か所の農場で栽培試験を行っているとの事で、参加国の実施体制が整ってきている事を実感しました。



集合写真

参加各国が植物品種保護制度を確立することは東アジア諸国での日本の品種の保護につながりますので、これからも関係各所と協力して活動を続けていきたいと思えます。

（特性調査管理課 渡辺 交）



## ◆オンライン一般公開への参加

2025年9月6日（土）、「農研機構 オンライン一般公開 2025」がニコニコ生放送®にて開催されました。

オンライン一般公開 2025 は「農業と暮らしを結ぶサイエンス」をテーマに、アズキのゲノム解析、生産現場の課題である水田の水管理や特定外来生物のカワヒバリガイなどについて、一般の方々が楽しく、さらに農業と食品への理解を深めていただけるプログラムとなっています。

種苗管理センターは全国各地の研究拠点を紹介するコーナーである「列島リレー」に参加し、本年度から開始している果樹の特性調査についてご紹介しました。ほ場での栽培管理や果実の調査の様子を、動画などを交えて分かりやすく説明しています。ぜひお楽しみください。

アーカイブ配信は以下の URL からご覧いただけます。

<https://live.nicovideo.jp/watch/lv348575631#23:26>



列島リレーの様子

（種苗戦略室）

### <編集後記>

新年あけましておめでとうございます。寒さ厳しい折、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

令和8（2026）年は丙午（ひのえうま）の年です。丙は十干の「火の陽」を表し、明るさや発展、積極性を象徴します。午もまた五行で火に属し、夏の盛りを示す十二支です。火と火が重なる丙午は、情熱と力強さに満ち、変化を起こす力が強い年とされています。昔は丙午にネガティブな俗説もありましたが、今では「勢いと情熱の年」として前向きに捉えられています。

この丙午の勢いにあやかり、私たち種苗管理センターも、品質の向上と技術の進歩に向けて、今年一年しっかりと取り組んでまいります。

寒さの中で芽吹きを待つ種のように、希望を胸に新しい一年をともに歩んでいきましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

（種苗戦略室）

（編集・発行） 農研機構 種苗管理センター 種苗戦略室

茨城県つくば市藤本2-2

TEL 029-838-6587 / FAX 029-839-1183

<https://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/ncss/>

<令和8年1月>